

第五金融事業本部

1 インタビュー 第五金融事業本部の設立

決済のプロフェッショナル集団として国内外の お客様をリードしていく組織を目指す

2020年7月、金融分野における決済領域を軸にしたビジネスを主導する組織として第五金融事業本部が設立した。これまでと変わらず安心・安全・安定を土台にミッションクリティカルなシステムを扱いながら、一方で、昨今の決済領域における外部環境の変化に対してどのように対応していくのか、細谷事業本部長に伺った。

決済分野でお客様をリードする 第五金融事業本部の設立

—昨年7月、決済を軸にビジネスを推進する組織として第五金融事業本部が設置されましたが、新事業本部の概要からお聞かせください。

細谷 第五金融事業本部は、決済の高度化やキャッシュレス化が進むインターネットバンク決済分野において、当社が保有するノウハウ・技術力を集約し、分野横断的なオファリングを

創出・拡大を推進することをミッションとしてスタートしました。インターネットバンク決済を掌る社会インフラを安全 (Anzen) かつ安定 (Antei) 的に提供し、お客様に安心 (Anshin) して利用いただくこと (Triple A) を「変わらぬ信念」として事業の礎にしつつ、今後生じる決済領域のパラダイムシフトをいち早く予見する等、決済のプロフェッショナル集団として国内外のお客様をリードしていく組織を目指しています (図1)。



株式会社 NTT データ
第五金融事業本部
事業本部長 細谷 好志氏

これまで培ったクオリティ・信頼を守りながら、新しいDX領域へ挑戦

変わらぬ信念

第五金融事業本部/決済ITサービス事業部のTripleA
社会インフラシステムを、「安全/Anzen」かつ「安定/Antei」的に提供し、
お客様に「安心/Anshin」してご利用いただく

変える勇気

決済のプロフェッショナル集団として国内外お客様をリードしていく組織へ

Create “NEXT FINANCE”
決済のパラダイムを変え得る中長期的議論の先導と実装、オファリング展開

図1 第五金融事業本部方針

——本部の主要顧客やビジネス概要についてお聞かせください。

細谷 本部直下に決済ITサービス事業部を配置し、その中で大きく3つのビジネスを展開しています。まずは、インターバンク決済に関連する種々お客様のシステムの開発、維持運用の受託ビジネスです。また、全国のATMを結ぶ統合ATMスイッチングサービスを当社サービスとして提供しています。さらに、グローバルビジネスとしてアジアの金融顧客向けに、中銀ソリューションの展開を行っています。

——お客様をリードしていくためにはどういった姿勢・取り組みが大切と考えていますか。

細谷 お客様のシステムだけではなく、お客様のビジネスを理解することが大切だと考えています。そのためにも、直接所掌するお客様はインターバンク決済分野となりますが、近年決済プレーヤとして存在感を増すノンバンク、リテール決済含め、エンドユーザまでを意識していくことが重要です。また、オフアリングについては、必ずしもPKGソリューション的なものだけを指しておらず、「決済の将来がこう変わるから、銀行接続点もこう変わる」といった見識に基づくコンセプトや変化に関する提案セットをいち早く社内展開していくことを意図しています。銀行顧客を持つ他本部がいち早くそれに備え、顧客提案につなげることでお客様をリードできると考えており、延いては、当社金融分野全体の競争優位性に寄与していくことになると考えています。

外部環境の変化に プロアクティブに対応

——第五金融事業本部様をとり巻く事業環境や最近のビジネス状況をお聞かせください。

細谷 提供するサービスの高品質開発、安定運用はもとより、決済分野を取り巻く外部環境変化に対応していくために、将来を見越したコンセプトメイクと技術検証を実施しています。

——外部環境の変化とは具体的にどのようなことを指していますか。

細谷 政府による「経済財政運営と改革の基本方針2020」で全銀システムのノンバンク開放や中央銀行デジタル通貨（CBDC）の技術検証が掲げられました。さらに2021年の同方針ではCBDCについて、「概念実証の結果を踏まえ、制度設計の大枠を整理し、パイロット実験や発行の実現可能性・法制面の検討を進める」と、より踏み込んだ言及がなされています。本方針に端を発し、関連する検討が加速しています。これらのことから今後起こり得る決済領域のパラダイムシフトを見据えて、第五金融事業本部としても様々なビジネスの可能性を検討しています。

——外部環境の変化にどのように対応していきますか。

細谷 まずは、環境変化に伴う決済事業の将来のあるべき姿を定め、全社に渡ってその像を共有すべく、「社内決済タスクフォース」を設置して活動してきました。決済領域における課題について、「オールNTTデータ」としてどう取り組んでいくかを議論し、決済の領域における個人や企業の課題、その課題解決に求められる機能、その機能の実装について

「NTTデータが考える次世代決済インフラのあり方」としてまとめました。この様な世界観を実現していくことが、決済領域におけるNTTデータの役割であると考えています。また、CBDCについては本年4月より日本銀行による概念実証実験（PoC）が始まりました。国外においても50ヵ国以上でCBDCに関する検討が実施されています。当社としてもそれらの動向を幅広く注視しながら、デジタル通貨の世界に必要な技術検証や新たなオフアリングの検討に着手しています。

——グローバルビジネスとしてはどのような取り組みを行っていきますか。

細谷 これまで培ってきた国内でのインターバンク決済基盤の開発や、ODAでの開発実績を基にした中銀ソリューションを、ASEAN各国に展開することを検討しています。国によって成熟度が異なるため、その国に必要なオフアリングを切り出す、或いは組み合わせることができる柔軟性を持ったソリューションを用意しています。

——最後に、今後の抱負をお聞かせください。

細谷 今年度の本部方針として「Create “NEXT FINANCE” with being proactive!」を掲げました。“proactive”=先見、先導、迅速、発信、発掘を基本行動姿勢に、本部内のシナジーを最大限発揮できるよう本部の組織づくり、人材育成を進め、決済のプロフェッショナル集団として邁進していきます。

——本日はありがとうございました。